HAL open science

日常会話の感情を表す慣用表現と語用論的機能 –驚きの場面に現れる慣用表現のコーパス研究をめぐって–

Alexis Ladreyt

To cite this version:

Alexis Ladreyt. 日常会話の感情を表す慣用表現と語用論的機能 –驚きの場面に現れる慣用表現のコーパス研究をめぐって–. Bulletins de linguistique et de littérature françaises de l'Université de Tsukuba, 2021, 1 (36), pp.1-24. ⟨hal-03644025⟩

HAL Id: hal-03644025

https://hal.science/hal-03644025

Submitted on 17 Apr 2022

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire **HAL**, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

Distributed under a Creative Commons Attribution - NonCommercial 4.0 International License

『筑波大学フランス語フランス文学論集』第 36 号、2021 年

日常会話の感情を表す慣用表現と語用論的機能
―驚きの場面に現れる慣用表現のコーパス研究をめぐって―

Alexis LADREYT

1. はじめに

日常会話はしばしば、ある言語や会話のレジスターに特有の語彙語用論的語句を使用する場面であり、また発話状況やそこで起こる様々な出来事により生じる主観的描写をもとに、自分の感情を表現する特権的な場でもある。そこでは、特定のコミュニケーションの目的や談話の意図を持つ話者が、意味論・統語論・語用論にもとづいて、ある程度すでに構成されている言語構造の総体を用いる。それらの言語構造を本稿では「定型表現」(phraséologisme) と呼ぶ。この定型表現としては、フランス語の ça va pas la tête ! や日本語の「腹立つ！」のような表現が挙げられ、これらの表現は語用論や談話、相互行為におよぶ広い範囲の機能を表す。

本稿の目的は、日常会話で用いられる感情を表す語用論的定型表現に着目し、実際の使用場面で観察されるそれらの表現の持つ特徴を、フランス語と日本語にもとづく対照分析の視点から研究することである。本稿では、特に「驚き」[1]に引き起こされる感情（驚愕、呆れ、怒り、喜びなど）に焦点を当て、これらの感情を表示する定型表現の機能を、形態統語論や意味論、語用論にもとづく観点から分析し、考察する。第 2 部では、まず本研究における分析対象の特徴を定義し、第 3 部では、分析に用いるコーパスデータの抽出やそのコーパスを構築するために使用した方法論を詳細に説明する。続く第 4 部では、フランス語を対象に、驚きに引き起こされる感情を表す語用論的定型表現の用例を分析し、その結果を日本語における同様の定型表現の用例と比較する。最後に、分析から得られた結果を議論し、本研究の今後の展望に触れ、結論とする。

2. 日常会話の感情を表す語用論的定型表現

2.1. 語用論的定型表現 (phraséologisme pragmatique) の概念

この比較的新しい研究分野は、Mel'cuk (2013, 2015, 2017) の phrasème[2]に関する研究によって大きく進展した一般定型表現を基盤としている。この研究分野では、話しことばに頻繁に現れる定型表現とその定型表現から派生する語用論的・談話的・相互行為的機能の関係性を、その表現の

[1] 「驚き」は、その概念や現象学のレベルで多くの議論があり、感情や反応、または感情を引き起こすものといったカテゴリーに分類されている。例えば、Ekman（1999）の感情に関する先駆的な研究においては、驚きが原始的な感情として位置付けられている。また、驚きは感情名詞の部類に属し、驚きの体験者と驚きを引き起こす事象という 2 つの意味論的項を持っているとされる（Tutin 2017）。本稿では、驚きという現象を、話者の日常生活における突然かつ予想外な性質を持つ事態によって引き起こされた感情的な反応として捉え、考察する。一般に驚きは瞬間的な反応と考えられ、怒り、恐れ、喜びなどの他の感情に先行して現れ、それらの感情を引き起こす。加えて、驚きは 2 種類に区別することができる：1）身体的なレベルでの自律神経的な反応としての驚き、そして、2）心理的、感情的および主観的な反応としての驚きである。本研究では、後者の驚きに焦点を当て、考察を進める。

[2] phrasème という概念は主に、分布が制限され、文の形態統語論的な特徴を持った連語句を示すものである。

出現条件（発話状況や相互作用に参与している話者）を考慮しながら明らかにすることを目標にしている。したがって、語用論的定型表現の使用とコミュニケーションの場面を構成する様々な言語外のパラメーターの間にある本質的関係を観察する研究分野と言える。例えば、mon œil ! (acte de langage stéréotypé (Kauffer 2017a, 2017b)) や il y a de l'eau dans le gaz (routine conversationnelle, (Klein and Lamiroy 2016)) などは、この語用論的定型表現という概念をよく示している。これらの例において、表現自体を通じて読み取れる命題内容から、表現に結びついた語用論的機能、つまり、１つ目の例では「不信感」、２つ目の例では「論争の始まり」という機能を推論することはできない。さらに、これらの表現は、その談話機能を予測することがほとんど不可能であるため、話者の持つ語彙レパートリーの中に１つのまとまりとして保存されている定型表現となっていると考えられる。このように、語用論的定型表現の分野では、一方で言語事象の形式的な特徴を明確にし、他方ではその言語現象の語用論的機能と、その使用を規定する様々な言語外のパラメーターを研究することが目的とされる。

定型表現に観察される現象は、欧米圏にとどまらず、日本の言語学者らの関心も引きつけており、とりわけ、意味の特徴の記述や様々な定型表現の類型化などが注目されている。特に白石 (1950) の語彙論的研究と宮地 (1974) の形態統語論的研究は、固定性、意味的構成性、連句性・語句性、慣用性[3]などの定義やその基準を提案するものであり、その後の研究分野の展開に寄与している。これらの先駆的研究は、「慣用句」「慣用語」「慣用語句」「熟語」「イディオム」など名称を生み出し、こうした名称は「目がない」や「気が合う」といった定型表現の慣用性や連句性を理解する上での礎となっている。また初期の研究を踏まえ、宮地 (1982 : 238 in 琳 2016) は、日常的な相互行為の中で頻繁に用いられる定型表現の新たな類型論を提案しており、この類型論はその後の語用的定型表現に関する研究の基礎となっている。語用論的定型表現の使用に見られる語用論的意味や機能に扱った最初の体系的な研究としては、石田 (2003, 2004) や土屋 (2007, 2011)、籾山 (1997) の研究が挙げられる。しかしながら、とりわけ日本語の日常会話に特有の語用論的定型表現に関する研究は、管見の限り十分なされていないように思われる[4]。以上の論考を踏まえ、本稿では、日本語における日常会話の定型表現の特徴を記述し、類型化するための手がかりを提案することを目指す。

本節では語用論的定型表現に関する理論的枠組みとその特徴を明らかにしたが、次節では本稿の分析対象である「日常会話の感情を表す語用論的な定型表現」の定義に焦点を当てる。

2.2. 感情を表す語用論的定型表現とは何か

Bally (1951 [1909]) がすでに *Traité de linguistique française* の中で、locution exclamative という概念をもって指摘しているように、またそれに続く研究 (Fonagy 1982; Coulmas 1981; Bidaud 2002;

[3] 詳細は琳 (2016)を参照。

[4] 日本に居住しておらず、また日本の学術界外の研究者であるため、日本国内でのみ参照することのできる文献にアクセスをすることが不可能という点についてあらかじめ断っておきたい。そのため、本稿における日本語の定型表現に関する先行研究のまとめでは、日本でのみ参照が可能な文献を十分に引用しきれていないという可能性がある。

Kauffer 2019; Marque-Pucheu 2007; Martins-Baltar 1997 ; Tutin 2019, Klein & Lamiroy 2011) でも同様に述べられているように、日常会話で頻繁に用いられる、感情を表すいくつかの既成構造は、解析することが困難な意味論的・語用論的・統語論的な特性を持っている[5]。そうした定型表現を本稿では、感情を表す語用論的定型表現 (Phraséologisme Pragmatique à fonction Expressive、以下 PhPex) と呼ぶ 。この語用論的定型表現の下位分類は、phraséologie des interactions (Tutin 2019) というタイプに属し、既成の語彙語用論的な連語句から構成されており、その主な機能を通じて、話者は発話状況におけるものごとの状態や態度、行為に対する反応としての心的態度を表現することができる。なお、PhPex は、その意味と機能を活性化させる特定の典型的な使用文脈と結びついており（ただし、制限されることなく）、またジェスチャーや音声、物理的・心理的距離の現れとも関連している。こうした表現として、とりわけフランス語における ça va pas la tête !、tu parles !、tu m'en diras tant !といったタイプに認められる生産的な語彙語用論的語句、日本語における「冗談だろう」や「ふざけるな」などの日常会話で使用される慣用句が挙げられる。

2.2.1. 形態統語論的特徴

PhPex とは clausatif[6] (Polguère 2016) である。つまり、PhPex はそれ自体で完全で使用可能な発話を表すことができ、一般的に多連語的で統語論上自立した表現である。また PhPex は、要素がまとまっている連語として話し手が記憶・選択しているコミュニケーションの構文であり、段階的で多数のレベルの制限下で出現するという点で、ある程度の固定性がある。この制限は、PhPex を構成している語彙的要素の選択と、それらの要素を組み合わせる方法に関連している。なお、これらの表現は「合同性」(congruence (Mejri 2020)) の原則によっても定義される。この原則とは、とりわけ、PhPex を構成する要素が、文脈において特定の意味や使用の具象化する語彙的・意味的な連語性を維持するという点によって特徴づけられるものである。加えて、PhPex は、口語で繰り返し使用されることに起因する強度な形態論的コンパクト性と、発話理解に不必要な構成要素を減らす言語経済性によって定義されている。同様に、PhPex は構成要素の省略可能性によって特徴づけられ、この特性によって、元の表現を置き換えることなく、よりコンパクトな省略形 (c'est pas possible ! = pas possible !、c'est mort ! = mort !) を用いることができる。

2.2.2. 意味論的特徴

まず PhPex を定義する第 1 の意味論的基準は「慣用性」 (idiomaticité (Gréciano 1983)) である。しばしば固定性や合同性と並ぶこの慣用性は、意味の不透明性を表すが、このことは常套句的な使用に見られる既成の定型連語句が固定されていく過程によるものである。そして、意味の不明性は、対象言語の社会文化的特徴と密接に関わる複雑な意味を出現させる。また、PhPex は総合

[5] 特に話しことばコーパスのデータが少なく、また分析に必要な数の事例の収集を可能にする大規模コーパスを取得することが難しいという点が挙げられる。

[6] clausatif とは、一般的な文と同様に統語論的な特徴を持ち、自律する発言として、そのまま用いられる表現構造を指す。

的な意味構造を持っていると指摘することができる。そして、PhPex はその形態がコンパクトであることに加え、意味構造が凝縮しており、使用コンテクストに応じて立ち現れるいくつかの意味的特徴が集約されている。また、社会文化的な情報だけでなく、機能的・語用論的な知識も呼び出される表現とされている。大部分の PhPex が意味的に非構成的であり、すなわち、各構成要素の意味を加算していくことでその表現の全体的意味を導き出すということができない[7]。また、PhPex の他の特徴として、否定または肯定的価値論を表現することが挙げられる。価値論とは、ある対象（ここでは表現的な反応の原因）に肯定的または否定的な評価[8]を与える認知過程に属する概念である。このように、価値論とは発話者の談話に統合されている主観性の表現とみなされる。加えて、Kerbrat-Orrechioni (2009 [1996] : 86) が述べるように、価値論は「発話主体によって外示されたものにもとづく肯定的価値づけまたは否定的価値づけの評価的判断」[9]と定義される。

2.2.3. 語用論・談話的特徴

PhPex は会話の習慣であり、したがって言語的な儀式化のプロセス（言語共同体内での慣習のように実施される、通時的または反復的な固定化のプロセス (cf. Ladreyt (2018)）を経た表現である。このように、極めて慣用的で、口語レジスターに属する表現は、社会上常套的な相互行為に頻繁に結びつけられ、日常の話しことばに関係している文化的構造に浸透している。また PhPex とは、感情的言語行為 (Searle 1975, 1985) であり、その使用によって話し手はある出来事に対する自分の感情を表現することができる。なお、PhPex は、発話内や行為上の基準を持っているため、話し手や発話状況に何らかの働きかけをすることを目標としている。そして PhPex は、特に外示的機能を持っているわけではない一方で、言語行為と談話領域と密接に結びついている。このように、PhPex は会話の参与者を結ぶ関係の性質を変えることと、相互行為の文脈における基準のいくつかに影響を与えることができる。さらに、主観的で慣用的な表現である PhPex には、特定のコミュニケーションの方法(エトス)や特別な文化的色合いが反映されていることが多い。この意味で、PhPex を発話するために使用される言語資源は、ある言語に特有のコミュニケーションの基準や社会文化的な暗黙知にしたがって選択される。

2.2.4. 相互行為的な特徴

PhPex の使用は、いくつかの相互行為的な特徴にも依存していると考えられる。この「相互行為的な」とは、2 人以上の参与者の間で行われる相互行為、すなわち、参与者が発話の機会を配

---

[7] しかし、この基準は絶対的なものではなく、構成要素によって表現の意味の全体または一部の推測が可能である表現がいくつか存在するということも指摘しておく。本稿では、紙面の都合上、この点についての具体的な考察は行わない。

[8] 評価とは、社会的・倫理的・定量的・感情的な基準との比較にもとづいた判断を行い、対象の特徴の 1 つに価値を与えることを目的とした認知過程である。評価は、常にある基準にもとづいて行われる。基準には 2 つ種類があり、段階的の基準（例：ソフトウェアプログラムの性能評価、災害の被害評価）と、話者の好みに応じて設定される主観的な基準（例：人の行動評価、モノの美観評価）が挙げられる。

[9] « un jugement évaluatif d'appréciation ou de dépréciation porté sur ce dénoté par le sujet d'énonciation »

り、コミュニケーションという行為を共同構築するということを意味している。PhPex は、反応的性質によって、進行中の発話状況で現れる出来事、発話、行動に対する感情的で主観的な反応を構成する。この反応は、あるきっかけ（人、出来事、行為、行動など）に対する主観的な評価の結果であり、その反応のきっかけは必ずしも発話状況で起きる出来事 (*in praesentia*) だけとは限らない（例えば、反応のきっかけが、発話状況で直接起こらないが、いくつかの事実を想起させる出来事であるという場合もある）。したがって、反応性の基準が PhPex の中心的な特徴であると言える。最後に、PhPex は、その構文上の自立性、複雑な意味構造、コンパクト性によって、それだけで発話ターンを構成することがある。以上を踏まえ、驚きに引き起こされる感情を表す語用論的定型表現の使用過程を以下の図 1 に示した。

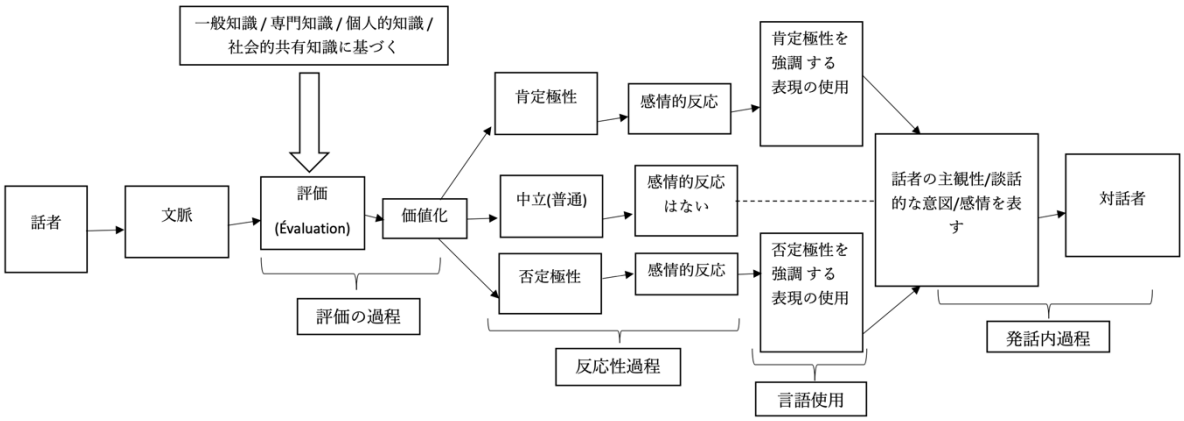

図 1　PhPex の使用過程

3. 方法論

3.1. 方法論におけるアプローチ

本研究は、コーパス言語学のアプローチにもとづいている。したがって、コミュニケーションがある媒体を通して行われている場合（小説、遠隔の相互行為、SNS など）、あるいは直接的に行われている場合（対面会話）にかかわらず、自然文脈のコミュニケーションの中で話者によって生産される、経験的でかつ実際的なデータを観察する。経験的なデータセットの構築は、反省的な過程（研究者が自身の必要とするデータの基準とその収集方法を明確に決定していくために自問する）であるだけでなく、データの探索とコーパスの改善を繰り返して考える反復的な過程でもある。そのため、コーパスとは、事前に熟考し、妥当な方法で選択され、研究プロジェクトの進行とともにより複雑になっていく研究対象とも言える。このデータの洗練の過程は偶然によるものではなく、観察されるデータの性質や研究目的と密接に関連している。

3.2. データの選定

本稿で使用したデータセットは、すでに作成・形式化され、厳格な基準にもとづいて洗練され

た注釈が付与されている、話しことば、または小説のコーパスである。

表 1　本稿で使用したコーパス

	様式	言語	データの規模 （語 / 時間）	注釈の種類
Lexicoscope[10]	書きことば	仏	3400 万	形態統合的
ORFEO[11]	話しことば	仏	450 時 / 400 万	形態統合的
NINJAL[12]	話しことば	日	200 時以上	形態統合的

また、（少なくとも書きことばのコーパスと比較すると）フランス語と日本語における話しことばのデータは限られていること、そして非介入の話しことばコーパスにおける用例数の問題があること（つまり、大量の録画データを収集しても、研究対象となる用例の数が不足している場合があること）を考慮し、本研究では SNS の Twitter も分析データとして利用する。Twitter は、実際の言語使用が飛び交う環境を提供し、そこでは口語的文字表記と呼ばれる、話しことばでのコミュニケーションに非常に類似している言語形式がユーザーによって用いられる傾向がある。Twitter のユーザーが、不在で非同期の様式ではあるが、対話者に対してメッセージを送信するということから、本稿では Twitter のユーザーを話者としてとらえる。

本稿で観察された表現ついては、いくつかの段階を経て選定されている。フランス語の表現は、*Projet Polonium Pragmalex*[13] (Krzyzanowska & Grossmann 2018 ; 2021) の枠組みで実現された感情表現の定型表現について、グルノーブル大学とルブリン大学の言語学者チームが実施した語彙語用論的研究にもとづいて選定されている。プロジェクトでは頻出する 51 の語用論的表情定型表現のリストが作成され、本稿ではそのリストの中から驚きの場面に現れる 3 つの表現を選択している。その後、フランス語の PhPex に着目した日本人学習者による第二言語習得についての研究 (Ladreyt 2020) にもとづき、日本語における同じ機能を持つ定型表現を 3 つ選定した。この博士論文の研究では、C1 / C2 CECRL レベルの日本語を母語とするフランス語学習者に、上述の 3 つのフランス語の PhPex に相当する日本語の定型表現を提案してもらった。提案された日本語の定型表現は、日本語とフランス語に精通している 4 人の日本語を母語とする教員兼研究者との確認と議論を通して評価され、その結果、以下の表 2 に記載されている表現が挙げられた。

表 2　日仏語間での驚きの場面に用いられる PhPex の対応関係

仏語表現	和語表現
j’y crois pas !	信じられない
c’est pas vrai !	嘘でしょう
(c’est) pas possible !	まさか

[10] http://phraseotext.univ-grenoble-alpes.fr/lexicoscope/
[11] https://repository.ortolang.fr/api/content/cefc-orfeo/11/documentation/site-orfeo/index.html
[12] https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc.html
[13] https://www.umcs.pl/fr/descriptif-du-projet,15298.htm

続いて、分析対象となる各表現に対応したサブコーパスを作成した上で、そのサブコーパスとTwitterの検索バーの基準にもとづいた検索インターフェースをもとに、オノマシオロジー的探索、つまり corpus based (Tognini-Bonelli 2001) の理論に則ったデータ検索を行った。このように、可能な限り多様な出典から抽出されたデータを収集した結果、各表現ごとに約 30 の用例を取得することができた。

3.3. 観察された特徴

サブコーパスのデータを分析した際に観察された特徴のいくつかを以下の表 3 に示す。

表 3　PhPex に観察された特徴のリスト

形態統語論的特徴	意味論的特徴	語用論・談話的特徴	相互行為的な特徴
- 統語論的タイプ - 統語構造 - 構造と形態論的変形 - 統語論的自律性 - コンパクト性 - 連語性 - 構成要素の組み合わせの特徴（構文解析テスト）	- 慣用性 - 意味論的構成性 - 多義性 - 価値論的な特徴 - 表現の持つ機能の予測性 - モダリティ	- 言語レジスター - 言語行為 - 表情性 - 談話領域（発言者への影響） - 文脈上の制約	- ポリフォニック・モダリティ - 表現の反応性 - 相互行為における表現の位置づけ - 上下関係の指標

選択された観察基準は、上で提案された PhPex の仮説にもとづいている。紙幅の都合から、本稿では対応関係にあるフランス語の j'y crois pas !と日本語の「信じられない」という 2 つの PhPex を取り上げ、その質的分析に焦点を当てる。

4.　データ分析[14]

本稿では、フランス語の j'y crois pas !と日本語の「信じられない」という 2 つの PhPex を比較し、これらの表現の働きを解析する。一見したところ同じ言語特徴を持っているように見えるこの 2 つの表現には、非常に興味深い使用の特性が見られ、それらを比較することで、驚きの場面に現れる PhPex の特徴を説明する上で、非常に有用な情報を浮かび上がらせることが可能となる。本節では、この 2 つの表現を比較し、その言語使用における共通点と相違点を明らかにすることを目指す。

4.1. j'y crois pas !

j'y crois pas！という定型表現は、話者がたった今起きた、強い感情的反応を引き起こす行動、

[14] 本分析は、様々なデータの予備検索に基づき、網羅的なものではない。本分析は主に、j'y crois pas !と「信じられない」の機能また用法の概観を目的とする。

状況、振る舞いに反応して驚き、それに引き起こされるかたちで用いられる。この表現の感情を表す機能を通じて、話者は憤りや失望、さらには満足の感情を表現することができる。また談話において、この表現は不承認や理解不能を表すことも可能である。このように、話者は、自分が経験している事実が信じられないように振る舞い、自身の反応のきっかけとなったものが想像できないということを表現する。まず j'y crois pas !の用例として (1) を以下で観察していく。

(1) Elle semblait furieuse, fatiguée et sous pression. Il pouvait comprendre.
– J'ai simplement dit la vérité, affirma-t-il.
– Ça serait bien la première fois... même si **je n'y crois pas** une minute.
– Ah bon ?
– Allons, John. « Coupable » était pratiquement écrit sur le front d'Ellen Wylie.
– Tu crois que je la protégeais ?

La colline des chagrins, Ian Rankin, 2001

(1) は、j'y crois pas !の通常の意味、すなわち、動詞 croire の否定形の使用によって表現される不信感の意味を示している。名詞句 une minute はこの例では副詞的機能を持ち、感情が継続する時間を強調することで話者の不信感を強める役割を果たしている。それでは、次の例を観察する。

(2) Nous avons d'abord cru à un mirage, une hallucination de plus. Mais les accents cuivrés et désordonnés de cette musique de fête continuaient à parvenir à nos oreilles, coupés et modifiés par les sautes du vent.
– Putain, c'est pas vrai... **J'y crois pas.**
– Un défilé militaire ?
– Ou des funérailles !

Train perdu wagon mort, Jean-Bernard Pouy, 2003

(2) では、間投詞 putain と c'est pas vrai という PhPex と共起した j'y crois pas !の慣用的意味が観察できる。この putain と c'est pas vrai は、話者の憤慨させるような出来事に対する強い驚きと憤りを表している。また、(2) ではこの 2 つの PhPex の組み合わせにより、話者が表現した感情が強化され、この表現の持つ否定的価値に向かって意味が位置づけられている。PhPex は、通常は感嘆的な定型表現で使われるが、(2) ではピリオドで終了した主張として使用されており、このピリオドは、急激で唐突な中断を連想させ、非難と驚きの談話的効果を強化していると考えられる。一方で、j'y crois pas !は、肯定的な価値を持った強い驚きの感情を表すために用いられることが可能である。

(3) OMG **j'y crois pas** je vais être Troponinologue !!!
ça fait depuis la P2 que je me dis que j'aurai jamais le classement pour ça et en fait si !!!

https://twitter.com/Doc_Junior25/status/1435173406517891073?s=20

(4) **j'y crois pas** c'est incroyable onepiece1024

https://twitter.com/anaisMa19867120/status/1433742708925947909?s=20

Twitter から抜粋した用例 (3)(4) が示すように、j'y crois pas !は賞賛や満足の感情を含んだ、肯定的価値を持つ感情的反応を表すのに使用される場合がある。(3) では、ある Twitter ユーザーが、循環器系専門のインターンとして雇われたことに対して驚きと大きな満足感を感じていることが観察される。続く (4) では、漫画「ワンピース」のファンが、最近出版された漫画のある特定の章の内容に対して、強い驚きと賞賛を表明していることがわかる。それほど生起数は多くないが、j'y crois pas !の標準語形（すなわち、否定の ne とそれとエリジオンを起こしている代名詞 y が省略されていない）je n'y crois pas の使用も観察される。しかし、この形は感情的な反応の意味よりも、不信感の意味と結びつけられることが多いと思われる。この形態統語論的な違いは、j'y crois pas !という省略された口語形が固定され、それに続いて j'y crois pas が感情を表す機能により特化しているのではないかという仮説の裏付けとなると思われる。

統語論上、j'y crois pas は主語人称代名詞 je と補語代名詞 y、動詞 croire、否定形の pas から構成された表現であり、分析したコーパスでは、この構造の持つ弱い統語論的固定性を観察するに至っている。その例として、補語代名詞の変形 (je **le** crois pas) や副詞の挿入 (j'y crois **vraiment** pas！、j'y crois **toujours** pas !) が観察されている。なお、この表現の統語的な自立性は、話者が驚愕や憤りを表現する場合に最も頻繁に観察される。このことは、この 2 つの感情（驚愕と憤り）の持つ反応的でかつ突発的な性質を踏まえると極めて妥当であり、この感情が一般的にコンパクトで統語論的に自立した慣用表現が優遇されるということを示唆している。

また j'y crois pas !は意味論的に抽象度の高い表現であることが分かる。croire という動詞の意味論的特徴からは、憤りや感嘆、驚愕の感情の意味を推し量ることができない。また、この表現の持つ発話内行為性 (illocutoire / イロキューショナリー) は、話者の認知過程 (procédé aléthique) にもとづいており、その過程を経て話者はある現実を目の前にそのような驚きを感じているということ、その現実を再検討している、すなわち「その現実を信じることができない」ということを表現している。人称代名詞と補語代名詞の使用は、発話状況を経験している主体と感情的な反応のきっかけをそれぞれ指示する直示詞である。加えて、PhPex の否定的価値の用法は、肯定的な意味の用法より頻繁に用いられているという傾向も観察されている。

語用論と談話の観点に立つと、この表現は主に不賛成、不承認、不信感 (j'y crois pas de ce que tu viens de dire) を表すことができるが、非難や否認という稀なニュアンスの用法も観察された。これらのニュアンスは、特に発話状況の特徴や話者のコミュニケーション上の目的に応じて現れる。話し手は、明らかに見たり、聞いたりしたことを信じることができないように振る舞うことで、発話状況を疑問視する姿勢を表現するという談話的なストラテジーを用いることができる。j'y crois pas !は主に日常の話しことばに観察されるが、相互行為の参与者間の距離がある程度近

ければ、比較的フォーマルな場でも用いられると考えられる。

j'y crois pas との組み合わせの特性については、表現の左文脈と右文脈に繰り返し出現する言語要素を観察することができる。表現の左文脈に関しては、この表現が、感情表現の機能の強調を可能にする、様々な言語性質を持つ周辺要素 (éléments satellites) と頻繁に結びついているということがわかる。したがって、間投詞 ((5) の putain, (6) の oh)、また (7) における接続詞 mais のように感情的反応を引き起こすコミュニケーションの場面にかかわる矛盾を強調する要素の出現が観察される。また (8) のように、否定の副詞 non は統語論的機能を担っているのではなく、発話状況の事実性を否定する認知過程にもとづいた突然の驚きの感情を表すマーカーとなっていることがわかる。

(5) **Oh j'y crois pas** les gens sont tellement cons

https://twitter.com/biebzxn/status/1325372170701303808?s=20

(6) **Putain, j'y crois pas** « Maradona est mort »

https://twitter.com/likma746712201/status/1331652886867144704?s=20

(7) **Mais j'y crois pas**, le mec a osé ?

@EmmanuelMacron

https://twitter.com/AndjelkaPe/status/1445134180506079238?s=20

(8) **non j'y crois pas**, enfin des propos censés de Domenech

https://twitter.com/Tintin565611/status/1445739753588985863?s=20

(7)(8) における周辺要素（mais と non）は、j'y crois pas とその前置きの組み合わせとして使用されることが多い。そして、mais、non と PhPex である j'y crois pas の組み合わせは、驚きの強さとその唐突さを強調しながら、話し手の感情的反応を強化する機能があると考えられる。なお、mais と non については、(9) [non + mais + j'y crois pas］や (10)［mais + non + j'y crois pas］という 2 パターンの要素分布が可能であることがわかっており、それぞれの分布には使用のニュアンスが見受けられる。

(9) **Non mais j'y crois pas !** Le déconfinement est programmé MAIS on continu à sacrifier nos étudiants ?

https://twitter.com/sissidu18/status/1392758591602544643?s=20

(10) Quoi mais qu'est-ce que j'entends Xavier Bertrand est candidat à la présidentielle ????!!!!

Mais non j'y crois pas !

Le mec ça fait juste 2 ans qu'il nous fait sa bande annonce

Ok c’est acté à qui le tour ?
#Macron2022

https://twitter.com/monicalova13/status/1375182606409596929?s=20

(9) の要素分布の場合には、しばしば憤りや非難などの否定的価値を持つ文脈に結びついた使用が観察された。(10) における要素分布では、憤りの感情と組み合わさった否定的価値を持つ予想外の驚きが表現されているが、この要素分布は、喜びの感情を伴った予想外の驚きの場合にも用いられる。また、非常に頻出度の高い周辺要素、特に putain と mais を伴った他の組み合わせもデータに見受けられ、この 2 つの周辺要素と組み合わされると、j’y crois pas !の持つ感情を表す機能が強調されると考えられる。

j’y crois pas !の右文脈に関しては、周辺要素として putain と quoi の使用、または感情表出を表す句読点（... , ! , ? ）の使用という 2 種類の特徴が観察された。j’y crois pas !と頻繁に共起するこの 2 つの周辺要素は、表現の左文脈に分布した周辺要素と同様に、PhPex の主観性や感情性を強化する機能を持ってると考えられる。j’y crois pas !の前置要素と同様に、後置要素として分布する間投詞 putain！を使用することで、話し手は自身の感情的な反応を強調することができる。なお、この組み合わせによる j’y crois pas !の使用は、肯定的価値より否定的価値を持つ文脈で使われることが多い。このことは、putain !という間投詞の使用が肯定的な文脈よりも否定的な文脈に結びつけられることが多いことによると思われる。以下の (11) では、quoi が j’y crois pas !に後置する談話マーカーとして用いられることによって、話者が自分の発言内容に対するスタンスを取り、発話した情報を前景化することを可能にし、対話者の間主観的な関係の構築に寄与している (Lefeuvre 2011)。

(11) Putain, j’y crois pas quoi.
Pourquoi j’ai un rdv tôt demain matin. La journée va être longue…

https://twitter.com/elsalibertY/status/1409624287334567937?s=20

上記の様々な用例を通じて、PhPex である j’y crois pas！ に際立って結びつけられる周辺構成要素の主な機能は、その PhPEx の使用によって表れる感情を強化するだけでなく、対話者との間主観的な関係を構築することであるということがわかる。また、これらの周辺要素は、非常に感情的でかつ主観的であるため、口語で格式が下がる言語レジスターにおいて特に用いられるということが観察された。以下の図 2 は、本研究で観察された PhPex の j’y crois pas！ の様々な組み合わせを示したものである。

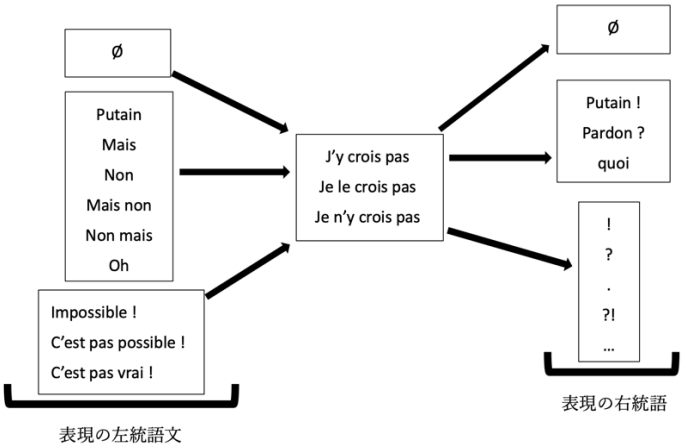

図 2　j'y crois pas !の周辺要素の組み合わせ

4.2. 信じられない

フランス語における PhPex の j'y crois pas !と同様に、「信じられない」という表現は、話し手が憤りや喜びを覚えるような状況や発言に対して、突然の強い驚きを表すために用いられる。以下でいくつかの用例を観察していく。

(12) 彼氏のことを信じられないじゃなくて、周りの女が信じられない。

https://twitter.com/6_a1e/status/1435500433208844290?s=20

(12) で話者は彼氏の周囲にいる女性たちを信じられない、信用しないということを表現しており、字義に従えば、可能形の使用が示すように「この女性たちを信頼することができない」ということを表している。本研究では、Twitter のデータや国立国語研究所のコーパスでの探索を通して、この「信頼」という概念に結びつけられる意味が一定数確認された。そのため、「信じられない」の使用には、不信感の意味よりも、フランス語の j'y crois pas !には認められない信用や信頼感の意味が含まれていると思われる。続いて、(13) を観察する。

(13) 信じられない。このようなことを国会議員が役所に依頼するということも、役所がそれを引き受けるということも。あまりにもお粗末すぎてため息。 全省庁で調査し、このような悪弊は直ちに根絶すべき。 議員のあいさつ文依頼、厚労省に 1 年で 400 件「へそ曲げぬよう…」

https://twitter.com/koike_akira/status/1462068655731085313?s=20

(13) では、2021 年に国会議員が、役所に話者にとって不適切な依頼を求め、話者が深い憤りを表現するために「信じられない」という定型表現を用いている。したがって、フランス語で分析した例のように、(12)(13) の例では、話者が経験した不当さに対する反応としての否定的価値を持った「信じられない」の使用が認められる。話者は、この状況を承認せず、その正当性を信じ

ないことで、その状況の存在を否定する。

(14) いやー涙が出そうなこの並び、、
超新星フラッシュマン、電撃戦隊チェンジマン共に超弩ストライク世代で、ヘルメットやローリングバルカンなどはあった記憶があるけどロボットは無かったんだよなー、、
今こーしてフラッシュキング、グレートタイタンが並んでいるなんて信じられないな
感謝、感謝

https://twitter.com/Satoxxxico/status/1434906150000947202?s=20

(14) では、PhPex である「信じられない」の肯定的価値にもとづく使用を観察することができる。このツイートの投稿者は、満足と賞賛を同時に示した強い感情的反応（「涙が出そう」）を表現している。実際に、このフィギュアコレクターは、ようやく自分のコレクションに希少なフィギュアを加えることに成功し感動しているように思われる。また、「なんて」という強調副詞が使用されることで、「信じられない」の持つ感情を表す機能が強調されており、また 2 回繰り返された「感謝」も、PhPex の持つ肯定性を強化していることがわかる。

この表現は、統語論的に自立（この表現だけで完全な発話を構成する）しており、動詞「信じる」の可能形「信じられる」の否定形で構成されている。またフランス語の PhPex と異なり、この表現は 1 つの語彙で構成される言語構造として使用され、形態論上の結合がかなり固定されている。実際、この慣用表現が持つ元の意味維持するために、表現そのものに内在する形態論素を変更することや、動詞時制、モード、アスペクトを変えることは不可能であると考えられる。しかしながら、「信じられない」の否定形の形態素「ない」を「ね」（信じられね）、さらに「信じられね」の否定形の形態素「ね」を「ん」（信じられん）へ形態論的に省略させた、口語的でインフォーマルな変形の使用も観察されている。これらの 形態論的変形は、本来的に「信じられない」の意味を変えるわけではないが、この表現の言語使用のレジスターをより直接的で自然発話によるものに調整し、この表現が持つ発話内行為とその感情性も強化する。加えて、「信じられね」の使用は男性性（男性としてのアイデンティティー）を指標し、一方で「信じられん」は「信じられね」ほど話者のジェンダー性を指標しないようである。続いて、以下に示した (15) を分析する。

(15) 緊急事態宣言延長要請、信じられん

https://twitter.com/taji_na/status/1435442354022850560?s=20

(16) 勝ったーーー
信じられねーーー！！
あと一つも頑張れーーー！！

NHK 様。今日の試合はダイジェストじゃなくてフルにアーカイブで見られるようにしてください。受信料は年払いで支払っております。
#車いすバスケットボール

https://twitter.com/t_heibon/status/1433781086362824711?s=20

「信じられない」は、類似した動詞の中核を共有している j'y crois pas !と同様に、意味の抽象度が高いということがわかる。実際、「信じる」という動詞の意味特徴だけでは、「信じられない」という PhPex が表す憤りや驚き、感嘆の意味を推測することが出来ない。「信じられない」と j'y crois pas !との間の構造的な近似性を踏まえると、「信じられない」の発話内行為は、発話状況に現れる出来事や発言の真実性を再検討する認知過程にももとづいていると言える。また、データ収集を通じて、可能形の形態素「れ」と否定形の形態素「ない」が形態論的に融合して構成された「信じらんない」と「信じらんね」という形態論的な変形が観察されている。

(17) 国民の命より五輪
信じらんない。。。
#G7　#コロナ #オリンピック

https://twitter.com/jhIOfw0EwmV1XZF/status/1403747478617223168?s=20

(18) とんでもない空間を発見してしまった。風呂道具持ってないのが悔やまれる。木造のノコギリ屋根の工場の裏にこの銭湯って映画のセットだろこれ。信じらんねえ。再訪確定。

https://twitter.com/2cyclebeeeats/status/1435921735392530440?s=20

これら 2 つの口語的変形は比較的頻繁に観察され、「信じられない」と同じように使用され、(17)のような憤り、(18) のような感嘆と肯定的な驚きを表現する。また、(18) は「ね」という形態論的に省略された否定形が使用されていることから、ジェンダー化された男性的言い回しであることが推論される。ちなみに、(17) のツイートの下に記載されているハッシュタグ（#）によって、上に示した状況に結びついた使用の否定性を理解する上で必要な共有知識を得ることが可能となる。

では、次の例を分析する。データ探索の際、とりわけ「信じられない」の変形の使用を調べたところ、Twitter では、表現形式上非常に興味深いが、周縁的な現象と捉えるには生起数がかなり高くなっている変形が観察された。この特別な変形とは、「信じられぬ」であり、この変形は標準語の否定形の形態素「ない」の代わりに古風な否定形の形態素「ぬ」が使用されているという点によって特徴付けられる。

(19) 今からバイトなんて信じられぬ。。。
今日働くテンションじゃないぞ、完全に引きこもりのテンションだぞ。。。

引きこもりに接客なんてご無体な。。。

https://twitter.com/poisonzn_/status/1439178205416484865?s=20

(19) では、話者がパートタイムの仕事に戻らなければならないことに対して否定的な反応を表現していることがわかる。この話者は人前に出るのが苦手であるのにかかわらず、接客業に従事しなければならないということに対して、憤りの感情的反応を示している。この憤りの感情は、特に、各文末で中断符 (...) が使用されていること、2 回発話されている、男性が頻繁に用いる感嘆終助詞「ぞ」の使用によって強化されている。Twitter でこの変形を使用している話者のユーザープロフィールを調べたところ、多くが若年層であるということがわかった。このプロフィールによれば、この若年層のユーザーは主に日本のサブカルチャーに共感し、アニメ、漫画、ビデオゲーム、Jpop などの文化的商品を消費する習慣がある。「ぬ」という古風な否定形の形態素の使用は、しばしば文学作品に限られているが、上記の若年層の話者が共感するような特別なイメージを持っている。同様に、この古風な言語形式の使用は、人気のあるサブカルチャー（特にマンガやビデオゲーム）において、しばしば魅力的でかつ独創的、また様々な分野で才能を持ち、立派で上品なキャラクターのイメージに結びつけられることが多いと考えられる。したがって、古風な否定形の形態素「ぬ」の使用は、上で分析した語用論的・談話的な機能に加え、社会カテゴリーに結びついたアイデンティティーやスタイルを表現する機能があると思われる。

上記の様々な用例では、「信じられない」の言語形式がコンパクトになればなるほど、そのくだけて、ダイナミックな性質によって、自然で感情的なインフォーマルなレジスターを表すことが示唆された。この形態論的な変化過程は、一方では話者によって表現される主観性、他方では PhPex に見る発話内行為の影響、そして感情を表す機能を強化すると思われる。これらの変形の使用に関しては、肯定的または否定的価値でも用いられ、コミュニケーションの文脈に特有の情報（話し手の特徴、役割、感情、上下関係）を指標することが明らかとなった。発話状況との繋がりについては、「信じられない」はフランス語のように主語が明示されていないが、可能のモダリティの使用によって暗示された談話の責任を話者が自ら引き受けること、そして認知動詞「信じる」の使用が必然的に人間の主体を前提としていることによって、「信じられない」の主体が明らかになってくることがわかる。また、フランス語の補語代名詞（j’y crois pas！における y）と異なり、「信じられない」において感情的反応を引き起こす出来事は言語的に明示されておらず、その情報は文脈から推測される。最後に、本研究における日本語のコーパスデータの分析では、フランス語の j’y crois pas のデータで示されたように、否定的価値にもとづいた「信じられない」の使用が支配的であるのか否かについては明らかにすることができなかった。

語用論・談話のレベルについては、「信じられない」は、憤り、怒り、不信感、賞賛、熱狂などを表現する機能がある。このように、「信じられない」を使用することで、話者は間主観的な関係を構築し、対話者やコミュニケーションの目的に対して感情的な影響を与えることができる。またフランス語のデータで分析した j’y crois pas !の事例と同様に、「信じられない」は、(13) 非難、

(15) 不賛成、(17) 強い反感などのニュアンスを表すということが観察された。これらの談話的機能は、「信じられない」という PhPex の語用論的機能と直接的に統合されているのではなく、これらのニュアンスが特定の文脈に応じて、「信じられない」という慣用表現の意味の中で顕在化していると考えられる。「信じられない」を使用する際に、話者は、現実離れしている強い感情的反応を引き起こす出来事や発言に直面し、自らの信念の世界 (univers de croyance) や事実の知覚を再検討するという意味論的な過程を経ている。最後に、j'y crois pas !とは異なり、「信じられない」には、コミュニケーションの文脈におけるいくつかの特性を形態素レベルで指標することができる変形が複数存在することも明らかとなった。

そして、「信じられない」という慣用表現には、機能の観点から相対的に幅広い組み合わせを持つという特徴がある。この表現の左文脈で頻繁に用いられている構成要素として、「まじで」「本当に」「まったく」「全然」「なんて」といった周辺要素が観察されている。最初の 4 つの周辺要素は、表現の持つ感情表出の機能を強調する強化副詞的な構造を持っている。「なんて」とは、話者の聞き手に対する感情を表す口語的な助詞であり、本研究では 2 つの成立様式が認められた。まず、(20) のように「信じられない」に前置し、文頭に使用されている場合、「なんて」は発話状況の状態に対する反応として強い感情を表現することができる。したがって、「なんて」は、一般的に肯定的・否定的な価値を持つ、特定の感情的なほのめかしの意味や話者の心的態度を示す語彙に結びつくことが多い。続いて、(21) のように挿入節として「なんて」が用いられている場合、感情的反応とその前に言及されている反応のきっかけを関連づける前方照応的な繰り返しを表す（牧野 & 筒井 2008 : 339）。

(20) 両親からの暴力が高校まで続いた、**なんて**酷い！

(21) 明日から准教授として務め始める**なんて**実感が湧かない！

「信じられない」の場合は、挿入節として使用される「なんて」がより興味深い分析対象となる。本研究のデータでは、「信じられない」が、話者の不賛成や対立を引き起こすような状況や状態を強調するために（市川 2018 : 551）、[反応のきっかけ＋なんて＋感情的反応]という二項構造の中に頻繁に挿入される傾向があることを観察することができた。

(22) 今まで気が付かなかったけど河野太郎氏　天安門バッジ付けてるじゃん！これダメでしょ！まさかの中国共産党員でないの！ブルーリボンも付けない今までの言動を見れば納得する。こんな人が日本の総理大臣になろうとしてる**なんて信じられない**。
#河野太郎　#高市早苗

https://twitter.com/Mashi777/status/1440250426775855106?s=20

「信じられない」の右文脈で頻繁に観察される周辺要素については、感嘆的な機能を持つ終助詞

(「ぜ」「ぞ」「よ」「なー」「は」)、合意を求めていることを示す間主観的な助詞（「ね」)、話者による説明的な談話を感情的に強調する機能を持つ発話行為的な助詞（「んだ 」（のだ)）が使用されることが明らかとなった。これらの明示的な要素の使用は、「信じられない」という PhPex の感情を表す機能や主観性を強調する。

感嘆詞の機能を持つ終助詞に関しては、その感嘆詞の機能に加え、話者の発話を強調し、また日常会話のくだけたレジスターだけでなく、女性の話者（終助詞「わ」）や男性の話者（終助詞「ぜ」「ぞ」「なー」）に特有の言い回しを指標することもできる。また、終助詞「なー」は、時に懐かしさのニュアンスを含んだ称賛を表すこともある（牧野 & 筒井 2013 [1995] : 195)。最後に、間主観的な終助詞「ね」は、対話者との感情的や心理的な結束（また時には共感）を表すだけではなく、特に話者の発言に向けて対話者の注意を引きつけ、合意を求めているということを示す場合もある。

また、本研究におけるデータ収集では、右文脈で「信じられない」に従属している複雑な言語形式、すなわち、談話マーカーに類似した特徴や用法を持つと思われる形式（特に「んだ」「んだけど」「んだよね」「よね」「のよ」「のよね」）の頻繁な使用が観察されている。これらの言語形式は、文法的な要素と複数の助詞の組み合わせによって構成されており、幅広い多様な談話的・語用論的機能を表す。なお、これらの文末構造は、それを使用している話者についての情報を指標することもできる。

発話行為的な終助詞「んだ（のだ)」は、話者による談話を強調し、説明的な談話のモダリティを示唆する終助詞として使用されることから、解説的な述語としての機能を持っている法助動詞である (Maynard 1992)。「のだ」の使用は、説明的モダリティを通して、話者が自らの存在を表明し、発言の責任を引き受けることを強化する（岡本 1995)。「んだけど」という文末構造は、通常論理的な譲歩関係の中で文内の 2 つの構文要素を結びつけるために使用される接続構文(A + んだけど + B)である。しかし、この言語構造は口語でも終助詞として使用することが可能である。したがって、「んだけど」はそれに前置された発言を前景化する機能を持ち、修飾する述語に応じて、否定的または肯定的価値を持つ感情のニュアンスを取り入れることを可能にする。加えて、「んだけど」の使用は、上で言及した終助詞、特に「んだけど」を構成する「のだ」と同様に、話者の発言や感情に聞き手の注意を喚起する。最後に、談話的な観点から、「信じられない」という PhPex の後に「んだけど」を使用することは、この PhPex が後続する述部の直接的な意味を抑え、解説的機能を加えることでその唐突さを弱めることが観察されている。

(23) 藤木直人が４９歳って<u>信じられないんだけど</u>

https://twitter.com/medamayaki_ay/status/1442143532639084545?s=20

なお、「信じられない」と組み合わせる「んだよね／よね」の変形も観察されている。最後の終助詞構文「んだよね」は、2 つの意味で解釈ことが可能である。最初の解釈は、「んだよね」を 1

つのまとまりしか形成しない固定された構造であるとみなすものである。この解釈の場合は、疑問のイントネーションで発話されることで、対話者に対して言外に確認を求めることができる。平叙文のイントネーションの場合は、「んだよね」は（独り言のように）自分自身に向けられた自己反省的な確認のコメントとして機能するが、そのコメントが間接的に対話者に向けられることで、批准を求めるようにも発言される。2 つ目の解釈は、「んだよね」を「んだよ ＋ ね」という 2 つの要素に分けられる文末周辺要素であるとみなすものである。このように、「んだよ」は、終助詞「ね」の使用に結びつけられた緩和や軽減の機能を付加しながら、対話者が提供する新たな情報を感情的・主観的に強調する。

(24)もう昨日　ほんとそう
一年たったもまだ**信じられないんだよね**
何でだろうなあ。。。
竹内結子ちゃん
素敵な人
芯のある強い人ってイメージが強いな
https://twitter.com/kochi_ko_510/status/1442516924454211585?s=20

本研究で確認された 2 つ目の構造は、「よね」という文末要素である。「よね」は終助詞「よ」と「ね」で構成されているが、この構造は語彙化された要素として考察することができる。「よね」という文末要素を使用することは、対話者に向けられた確認の機能を示唆し、加えて、対話者が話者と同じ情報を持っているという可能性があり、ある程度知識を共有していることを言外に意味する。また、この周辺要素は、話者による感情的反応に対する合意 (consensus) を求めることも意味すると思われる。

(25) 昨日のツイキャスで親しい人が亡くなったと言う話が出た。今まで当たり前のように生きてた人が、いきなり居なくなるのは、本当に実感が湧かないし、**信じられないよね**。それに先立たれるのはやっぱり辛いし。でも、残された者がその人の分も、生きていかなきゃいけないんだよね。命のバトンは続けなきゃ。
https://twitter.com/fukumarukasi/status/1446284314396618754?s=20

終助詞「のよ」については、コーパス内で観察された多数の用例において、女性の話者によって頻繁に使用される、発話の感情的強化を表現するものであることが確認されている。また、「のよ」の後に主観的な終助詞「ね」が付加された「のよね」という文末構造も観察されており、この構造は上記の「んだよね」と同様の機能的特徴を持つと考えられる。

(26) 私は子供のとき、嫌味な大人だ嫌いで、絶対批判的だったので、今の子が何の疑いもせず嫌

味ないじめを手伝うのが本気なのか信じられないのよ。そこまでもともと考える力ないのねって。感じ取る力ないのね。感じないんだね。なにも。

https://twitter.com/eishiha/status/1445681112039116802?s=20

最後に、これらの「信じられない」の出現の後に、感情的な機能を持つ句読点（「！」「？」「...」「！」）が頻繁に使用されていることについても言及したい。これらの句読点は、話者が伝達する感情性の興味深いマーカーであり、とりわけ感情を表す語用論的定型表現の使用時に導入された抑揚や強勢を示すものである。これらのマーカーを複数回使用する、または組み合わせることで、表現の持つ感情性を強化することができる。

上で論じた「信じられない」をめぐって観察されたすべての共起要素は、「信じられない」の使用による感情的でかつ間主観的機能の具体的な痕跡であると思われる。これらの共起要素は、（*discourse modality strategies* (Maynard 1992) の意味において）話者の談話における目的や対談者に対して望む効果に応じて、様々な方法で話者が自身の発言を主張することを可能にする。また、これらの文末の周辺要素は、会話の折衝ではなく、発話状況の様々な特徴を考慮することで構築され、また各話者によって示唆・推測される言外の意味を目的とする、日本語のコミュニケーションのエトスを反映している。「信じられない」の用例の分析で確認された様々な言語要素の分布を以下の図 3 に示す。

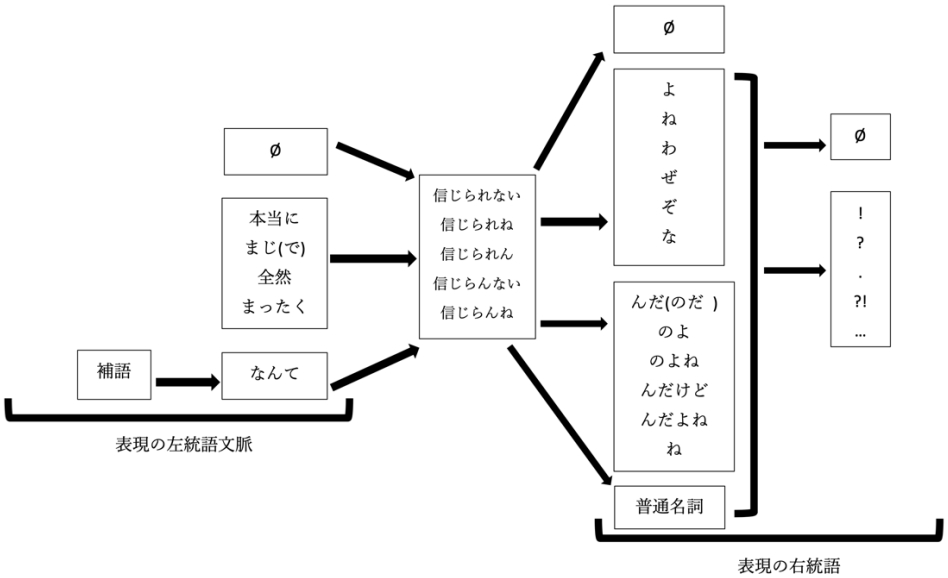

図 3　「信じられない」の周辺要素の組み合わせ

5. 分析結果のまとめ

本予備研究の最初の成果として、PhPex の特徴、とりわけこのタイプの慣用表現の使用、発話文脈、相互行為の参与者をそれぞれ結びつけている相互的な関係性を明確にしたことが挙げられる。実際、表現が持つ本来の意味は、文脈や話者のコミュニケーション上の目的に応じて具象化

する。また、本稿ではフランス語と日本語の対照言語学的分析を通じて、言語形式上のレベルで共通する特徴だけでなく、意味論や語用論のレベルでの相違点も観察することができ、結果として語用論的定型表現という概念の特性をさらに明らかにするに至った。フランス語と日本語で機能が対応している 2 つの PhPex に着目して実施されたこの最初の対照分析の結果、日本語母語話者の心的態度を表す表現を記述する上で、PhPex の理論的枠組みが提案する諸特性が妥当でかつ有用であるということが示唆された。本研究の分析結果を通じて、フランス語と日本語という 2 つの言語の間に共通する多くの特徴を見出すに至り、その結果 PhPex を記述する上であまり妥当であるとは考えられないいくつかの基準を排除することもできた。

なお、対照分析によって、両言語において驚きの感情が肯定的価値だけでなく、否定的価値にも指向しており、またその驚きの感情が他の感情や談話の目標と結びつけられるということを観察することができた。日本語にせよフランス語にせよ、PhPex とは、日常会話において極めて重要な言語構造であり、話者は PhPex を通じて、進行中の発話状況の中で自らの多様で複雑な経験や思考を表現することできる。また、PhPex を通じて話者は、自らの発言を強く主張したり、自分の本音と一致した自らのイメージを映し出したり、対話者との間主観的な関係を構築したりすることができる。

また本稿では、PhPex の使用を通じて、話者は言語のレジスターに加えて、対話者との関係、話者の持つアイデンティティーの位置づけや社会的特徴といった文脈的指標を表現することが可能であるということを明らかにした。このことが日本語との比較によってもたらされた研究の進展と言えるだろう。なお、フランス語では、日本語のようにこれらの文化的指標が形態素レベルで語彙化されてはいないが、社会言語学的な様々な指標を考察することは、フランス語にも問題なく応用できると思われる。そして、フランス語と日本語の対照を通じて解明されたこの新たな記述の視点は、PhPex の記述やモデル化に革新的な展望をもたらすと考えられる。ここまでの観察によって明らかになった特徴の要点を以下の一覧表に記した。

表 3　j’y crois pas !と「信じられない」の用例に観察された特徴の要点比較

		PhPex　仏	PhPex 和
		j’y crois pas	信じられない
形態統語論的特徴	統語論的自立性	○	○
	統語論的変形	○	○
	コンパクト性	○	○
	連語性	○	×
	構文解析テストの可能性	○	×
意味論的特徴	慣用性	○	○
	意味論的な構成性	×	×
	多義性	○ （意味 1 :驚き/ 意味 2 :不信）	○ （意味 1 :驚き 意味 2 :不信仰 意味 3 : 信頼できない）
	価値論	否定・肯定	否定・肯定

	表現が持つ機能の予測性	×	×
	直示詞の使用	○	×
	事実否定の使用	○	○
語用論・談話的特徴	言語のレジスター	口語 口語 + 口語 ++	口語 口語 +
	感情性	○ （否定 = 憤り / 呆れ） （肯定 = 感嘆 / 喜び）	○ （否定 = 憤り / 呆れ） （肯定 = 感嘆 / 喜び）
	談話の目的（発言者への影響）	○ （不承認、不同意、非難）	○ （不承認、不同意、非難）
	文脈での顕在化	○	○
	文脈上の制約	驚きの反応を引き起こす、意外な出来事、発言、行動	驚きの反応を引き起こす、意外な出来事、発言、行動
	語用論的な機能の周辺要素	○	○
相互作用的な特徴	多声的なモダリティ	対話 二人以上の対話	対話 二人以上の対話
	表現への反応性	○	○
	相互行為の流れにおける表現の位置	開始部・中間 会話の終了部で使用される可能は低い	開始部・中間 会話の終了部で使用される可能は低い
	上下関係の指標	距離	距離 /上下関係
	社会的指標	×	○
	アイデンティティーの指標	×	○
	主観的・間主観性の指標	○	○

6. 結論

驚きを表現する PhPex の使用を取り上げた本予備研究では、意味論的・語用論的・相互行為上の観点から、PhPex の使用に見られる複雑な特性を明らかにした。日常会話に特有の慣用表現を扱った対照言語学的研究にもとづくこの初めての試みによって、驚きに引き起こされる感情を表す言語ストラテジーに見るフランス語と日本語の共通点を観察・記述することができた。また、本対照言語学的研究の結果、PhPex の定義を見直し、新たな基準を考慮に入れるための道を切り拓くことできた。しかし、本研究はあくまでも最初の事前段階に位置付けられるものであり、驚きの場面に現れる PhPex の特徴を網羅的かつ普遍的に説明するものではない。一方で、本研究は、PhPex という言語学的対象について、実際のデータにもとづきながら、統語論・意味論・語用論的な特徴を経験的に概観するための最初の視座を提供するという点で意義があると言える。加えて、本研究は、同じ研究対象を扱う他の研究への道を開くものである。今後は、フランス語だけではなく、日本語に（将来的には他の言語に）も適用可能な、PhPex の使用に関する機能的・実践的理論を提案するために、表現された感情に応じた PhPex の特徴のモデル化を進めたい。そして、本研究に続いて、他の種類の感情を観察するために、多様で自然な日常会話データの収集を進めること、そして SNS 上で観察されたデータを用いて、本研究で提出された仮説が裏付けられるかどうかについて精査することを試みる。

参考文献

Bally, C. (1951 [1909]) *Traité de stylistique francaise*, 3. éd., nouv. Tirage. Genève: Georg [usw.].

Bidaud, F. (2002) *Structures figées de la conversation: analyse contrastive français-italien*. Études contrastives, v. 4. Bern: Lang.

Coulmas, F. (1981) *Conversational routine: Explorations in standardized communication situations and prepatterned speech*, Vol. 96. Walter de Gruyter.

Ekman, P. (1999). « Basic emotions ». *Handbook of cognition and emotion 98,* nº 45-60: 16.

Fonagy, I. (1982) *Situation et signification*, Pragmatics & beyond, III:1. Amsterdam ; Philadelphia: J. Benjamins.

Gréciano, G. (1983) *Signification et dénotation en allemand: la sémantique des expressions idiomatiques*. Vol. 1. Klincksieck.

Kauffer, M. (2017a) « La pragmatique est-elle soluble dans la phraséologie ? », In *La Phraséologie Française: Débats théoriques et dimensions appliquées (didactique, traduction et traitement informatique)*, 15 p. Hermann.

Kauffer, M. (2017b) « Les actes de langage stéréotypés », Séminaire DéLiCorTAL, Université Grenoble Alpes & LIDILEM (mai).

Kauffer, M. (2019) « De la pragmaticalisation en phraséologie », In Balas, Oana-Dana, Anamaria Gebaila, et Roxana Voicu. *Fraseologia e paremiologia Prospettive evolutive, pragmatica e concettualizzazione*, Edizioni Accademiche Italiane.

Kerbrat-Orecchioni, C. (2009) *L'énonciation: de la subjectivité dans le langage*. Armand Colin.

Klein, J.-R., Lamiroy, B. (2011) « Routines conversationnelles et figement », In J.-CL Anscombre et S. Mejri (dir.), *Le figement linguistique : la parole entravée*. Paris : Honoré Champion, p. 195-214.

Krzyżanowska, A., & Grossmann, F. (2019) « Pragmatèmes en contraste : de la modélisation linguistique au codage lexicographique - Projet Polonium Partenariat Hubert Curien (PHC) franco-polonais 2018-2019 ». *Lublin Studies in Modern Languages and Literature* 42, nº 4 (5 février 2019): 252.

Ladreyt A. (2020) « Une étude préliminaire de la compétence phraséopragmatique chez des apprenants japonais du français de niveau avancé », *Action Didactique*, [En ligne], 6, 157-175.

Ladreyt, A. (2018) « Les pragmatèmes d'ouverture et de clôture de l'interaction en japonais dans les romans de Murakami Haruki : une étude de corpus », mémoire de deuxième année de master mention Linguistique parcours recherche.

Lamiroy, B. & Klein, J.R. (2016) « Le Figement. Unité et diversité. Collocations, expressions figées, phrases situationnelles, proverbes ». *L'Information Grammaticale* 148, 15-20.

Lefeuvre, F. (2011) « Bon et quoi à l'oral : marqueurs d'ouverture et de fermeture d'unités syntaxiques à l'oral ». *Linx. Revue des linguistes de l'université Paris X Nanterre*, nº 64-65, 223-40.

Makino, S., & Tsutsui, M. (2012 [2008]) *A Dictionary of Advanced Japanese Grammar,* First edition. Tokyo: The Japan Times.

Makino, S., & Tsutsui, M. (2013 [1995]) *A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar,* First edition. Tokyo: The Japan Times, 1995.

Marque-Pucheu, C. (2007) « Les Énoncés liés à une situation: Mode de fonctionnement et mode d'accès en langue 2 », *Hieronymus, I*, p. 25-48.

Martins-Baltar, M. (éd.) (1997) *La locution entre langue et usages*. Langages. Fontenay/Saint-Cloud: ENS Éd.

Maynard, S. K. (1992) « Cognitive and pragmatic messages of a syntactic choice: The case of the Japanese commentary predicate n (o) da », *Text-Interdisciplinary Journal for the Study of Discourse* 12, nº 4 : 563-614.

Mejri, S., Meneses Lerin L., & Buffard-Moret, B. (2020) *La phraséologie française en questions*, Vertige de la langue. Paris : Hermann.

Mel'čuk, I & Iordanskaja, L. (2017) « Phrasèmes et leur description dans un dictionnaire », In *Le mot français dans le lexique et dans la phrase*, Paris : Hermann, p. 93-112.

Mel'čuk, I. (2013) « Tout ce que nous voulions savoir sur les phrasèmes, mais », *Cahiers de lexicologie: Revue internationale de lexicologie et lexicographie*, nº 102, 129-49.

Mel'čuk, I. (2015) « Clichés, an understudied subclass of phrasemes », *Yearbook of Phraseology*, *6*(1), 55-86.

Okamoto, S. (1995) « Pragmaticization of meaning in some sentence-final particles in Japanese », *Essays in semantics and pragmatics in honor of Charles J. Fillmore*, 219-46.

Polguère, A. (2016) « Il y a un traître par minou : le statut lexical des clichés linguistiques », *Corela*, nº HS-19.

Searle, J. R. (1975) : « A taxonomy of illocutionary acts », archive en ligne (https://conservancy.umn.edu/bitstream/handle/11299/185220/708_Searle.pdf?sequence=1)

Searle, J. R. (1985) *Expression and meaning: Studies in the theory of speech acts*. Cambridge University Press.

Tognini-Bonelli, E. (2001) *Corpus Linguistics at Work*. Studies in Corpus Linguistics 6. Amsterdam: Benjamins.

Tutin, A. (2017). « La mise en scène de la surprise dans les écrits scientifiques de sciences humaines ». *TRANEL. Travaux Neuchâtelois de Linguistique*, Techniques, rhétoriques et écrits scientifiques, *nº 65* : 19-35.

Tutin, A. (2019) « Phrases préfabriquées des interactions : quelques observations sur le corpus CLAPI », *Cahiers de lexicologie 2019 – 1, n° 114. Les phrases préfabriquées : Sens, fonctions, usages*, 63-91.

石田プリシラ (2003)「慣用句の意味分析 —《驚き》を表す動詞慣用句・一般動詞を中心に」, *Tsukuba journal of applied linguistics*, nº 10, pp. 1-16.

石田プリシラ (2004)「動詞慣用句の意味的固定性を計る方法 —統語的操作を手段として—」『国語学』55(4), 日本語学会, pp. 42-56

市川保子(2018)『日本語類義表現と使い方のポイント : 表現意図から考える』, スリーエーネットワーク出版.

白石大二 (1950) 『日本語のイディオム』, 三省堂.

土屋智行(2007)「動詞慣用句の連体修飾と意味解釈の関係 —「顔/目/手/を V」の表現を中心に—」『日本語用論学会大会研究発表論文集』3, 日本語用論学会, pp. 113-120.

土屋智行(2011)「言語の創造性の基盤としての定型表現 —慣用句およびことわざの拡張 用法の調査—」

『認知科学』18 (2), pp. 370–374.
宮地裕 (1974)「『成句』の分類」『語文』, 第 32 輯大阪大学国文学研究室編輯, pp. 113-121.
宮地裕 (1982) 『慣用句の意味と用法』, 明治書院.
籾山洋介 (1997)「慣用句の体系的分類 —隠喩・換喩・提喩に基づく慣用的意味の成立を中心に—」『名古屋大学国語国文学』80, pp. 29-43.

（ラドレ・アレクシ / LIDILEM 研究所, グルノーブル・アルプ大学）